

## 「学んで思わざる」の危険な学習

－大学と高校の違い－

2014年8月3日

次に二つ目ですが、やはり大学の教育ですから、高校での学習と決定的に違うところはどこか、これをお話しないわけにはいかないだろうと思います。で、ここに「学んで思わざる」の危険な学習と書きましたけれども、この「学んでいる」んだけれども「思わざる」というところですね。お手元の資料、その右ページの資料1をご覧ください。こちらを先に少し解説してみます。

これは加藤周一という人の『学ぶこと思うこと』（岩波ブックレット）からの抜粋ですが、これは非常にわかりやすいですね。私は卒業生のメッセージあるいは講義のイントロダクションのときにも必ず話しますが、教師が教えてくれるから学ぶんじゃない。逆に申しますと、それは中学や高等での学習態度なんです。個人が自分自身で問題を考えていて、自分自身で問題を考えますね、その問題を解くために知識が必要だと。そういうふうにとらえると、知識は瞬間的に道具になってしまう。目的ではないんですね、「転化」というふうに書いていますけど。自分の見つけた問題をその道具を使って解こうとする、だから「これが問題だ」ということが先になければならない。それが「思う」ということです。「問題意識」と書いていますけども。

で、それは確かに与えられたもの、人から与えられたものじゃなくて、この自分の中、ここが非常に重要なんです。その自分の中から湧き出てくるような問題意識、これがまず先にないと、「学んでいるんだけど、思わざればくらし」、つまり明るくない、理解できない、そういうことなんです。

要約してみますと、やはり何のための知識か、それはあくまで道具なんだよと。大学では「思う」こと、つまり問題意識があるかないか、これが先なんです。それがあってこそ、知識を通して物事を本当に理解するというところに到達するわけです。

ですから、よく経験するんですが、一番前の席で熱心に「学んでいる」ようなんだけど、この「思う」の方がどうか、ということですね。ここが非常に重要なんで、これがないと危険な学習、つまり「学びて思わざれば、すなわちくらし」ということになりがちだと。たんに卒業のための単位をとるだけのものになってしまうわけです。

※2014年8月3日オープンキャンパス模擬講義から  
(その1)

### 「かんじんなことは、目には見えないんだよ」

—見えるもの、見えないもの、そして見せているもの—

8月3日

三つ目は、「見えるもの・見えないもの・見せているもの」という見方ですが、これは私がよく使う  $H_2O$  のたとえが比較的わかりやすい。このたとえで学生はよく理解してくれるんですが、先にこのスライドをお見せします。放送大学の講義で使っているスライドですが、 $H_2O$  といっても、われわれがこの肉眼で目にするのは水（液体）や氷（固体）あるいは水蒸気（気体）です。この面だけ見ますと、まさに三者三様でまったく違うんですね。液体であり固体であり気体でありますから、まったく違う。その働き（機能）も違う。

ところがですね、この  $H_2O$  の方は「変わらぬ」(㊦)

もので、「変わる」(㊸)ものが先の三つの形態なんです。変わるもの、変わらぬもの、という見方からは、どういうふうに見えてくるかというところ、ここを空白にしていますが、重要なのはさらにこの「変えている」(㊹)もの、そしてそれが何かですね。

これは君たち高校生でも簡単に答えがでると思うんですが、何でしょうか。そう、三つの形態に変えているものは温度ですよ。温度の変化によって、この水・氷・水蒸気に形態が変化している。ですから、形態というのは、いわば「仮の姿」をしているだけの話なんです。あるときは水、あるときは氷といった具合です。

仮の姿なら「変わらぬ」ものがある、というところが重要な見方であり、そこから何らかの「契機」あるいは「条件」によって、ここでは温度ですが、それぞれ異なった形態、姿が現れてくる。こういう見方が非常に重要なのだと。

でそれを別の説明をすればこうなります。先に  $H_2O$  は「変わらぬ」ものと申しましたが、それは具体的に目にする「形態」に対して、それを生み出しているものとしての「構造」です。構造は「見えない」(㊺)もの、つまり肉眼では見えません。サイエンスの眼でないと見えません。形態はむしろ肉眼で「見える」(㊸)ものですね。そうすると先の温度変化は3つの形態に「見せている」(㊹、形態化)もの、こういうふうになるわけです。この㊺、㊸、㊹の三つのレベルとその関連(㊺→㊹→㊸)をしっかりとつかむことが大事だと。これはあとあとの議論にも、あとの話しにも関わってまいります。

すなわち、ここで形態の右側に「相対化」と書いています。ここがまた重要です。そして  $H_2O$  と温度の左側に「重要」と書いていますが、つまり㊺構造から㊸各形態

に「見せている」もの、「変えている」ものという見方を  
しますと、この④形態化の契機（温度変化）を見つける  
ことで、三つの形態が相対的に見えてくるんですね。そ  
れらは同一の構造（ $\text{H}_2\text{O}$ ）から温度変化によって異なっ  
た姿をとっているにすぎない。「構造」をとらえることで、  
「形態」だけの現象世界にとらわれなくなるんです。

君たちも知っているかと思いますが、ここである名作  
の言葉を引用しましょう。「かんじんなことは、目には見  
えないんだよ」、ここが大切なことです。そしてそれを見  
つけることです。

※2014年8月3日オープンキャンパス模擬講義から  
（その2）